

ご寄付、各種活動に関する
お問い合わせはこちら。

電話 受付時間 | 9:00-17:00(月~金/土日祝日を除く)

 0120-533-236

インターネット

日本財団 

www.nippon-foundation.or.jp



For Social Innovation

公益財団法人 日本財団

〒107-8404 東京都港区赤坂1-2-2
Tel: 03-6229-5111 Fax: 03-6229-5110
E-mail cc@ps.nippon-foundation.or.jp

寄付から チカラ

日本財団 ドネーション事業部 活動報告書 2019

日本財団
会長 笹川 陽平



皆様からのご寄付の報告です

私たちは、わが国の寄付文化の醸成・拡大を目指して活動しております。誠に有難いことに、2019年度には約21億円に及ぶご寄付を頂戴しました。日本財団は1円たりとも人件費その他の経費に使用することなく、寄付金は全て皆様のご希望に答えるべく活用しております。ここに多くの皆様からのご寄付に対し、心より感謝申し上げますと共に寄付金の活用状況についてご報告申し上げます。

さて2019年度も、令和元年台風15号・19号による大雨や河川の氾濫で、広い地域で家屋の浸水や道路の崩壊など甚大な被害が発生し、被災地のいち早い復旧・復興の支援活動に取り組んで参りました。また、2020年に入ってからは新型コロナウイルス感染拡大に伴い世界的な危機に直面し、我が国も医療関係者は最前線で感染拡大を抑えるため、昼夜を問わず懸命な活動をされています。日本財団は、民間の立場ながら、病院病床の不足に備えるため軽度感染者受け

入れ施設の整備や医療従事者・貧困家庭の子ども達への支援などの活動を行っております。今後も新型コロナウイルスとの戦いは長期化が見込まれることから、私たちは引き続き、国や自治体では困難な支援策に取り組んでゆく所存です。

現在我が国は、GDP(国内総生産)の2倍を超える約1,100兆円の債務を抱えています。今後ますます多様化・複雑化する社会課題の解決を図り、社会コストを如何にして抑制するかが重要となります。国や自治体など行政だけではそれらの達成は到底困難です。より良い社会の実現のために、私たちは透明性の確保と説明責任のもと、皆様のお力を得て「みんながみんなを支える社会」を目指して活動を続けます。

引き続き、私ども日本財団の事業活動にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。併せて皆様からの厳しいご批評を頂戴できましたら幸甚に存じます。

笹川 陽平



たくさんの

2019年度も、ありがとうございます。



2019年度
寄付総額

2,103,253,734 円

チャリティー自販機



P06



2019年度寄付金額

281,719,736円



2019年度寄付型
自動販売機の設置

999台



稼働台数計

7,929台

子どもサポートプロジェクト



P15

子供の貧困対策支援



拠点数 **30**箇所



2019年度寄付金額

131,331,149円

難病の子供とその家族の支援



拠点数 **22**箇所



2019年度寄付金額

87,216,601円

夢の奨学金



奨学生
(1~5期) **75**名



2019年度寄付金額

76,508,003円

TOOTH FAIRY



P09



2019年度金属リサイクル/現金寄付金額

221,014,390円



2019年度 撤去金属ご提供件数

1,575件



累計金属リサイクル/現金寄付金額

1,779,292,566円



累計参加医院数推移

6,806医院

災害復興支援

P24



2019年度寄付金額

346,038,641円



2019年度
支援団体数

171団体

HEROs

P28



2019年度寄付金額

31,469,700円



2019年度
アンバサダー

20名



VENDING MACHINE



日本全国
7,900台
以上

累計寄付金額
19億円
以上

1本10円の社会貢献 「日本財団チャリティー自販機」

全国で7,900台以上が設置されており、累計19億円を超えるご寄付をいただいております。皆様からいただきましたご寄付は、100%全額、子どもの貧困対策支援・難病児とその家族への支援・社会的養護のもとで暮らした若者への進学支援・災害復興支援・アスリートが進める社会貢献活動支援等に活用させていただきます。

◇活動の概要

寄付の仕組み(例)



支援プロジェクト

5つの支援事業の中から寄付先をお選びいただけます
お預かりする寄付金は、間接費をかけず100%支援活動に使用させていただきます。

<p>子どもサポートプロジェクト 1 子どもの貧困対策支援</p> <p>貧困のために教育や体験の機会を失い、地域や社会から孤立する子どもたちの成長支援を行います。</p>	<p>子どもサポートプロジェクト 2 難病児と家族支援</p> <p>医療の発達と共に増加する小児難病や障がいと闘う子どもたちとその家族。孤立しがちな闘病生活を、支えます。</p>
<p>子どもサポートプロジェクト 3 夢の奨学金への寄付</p> <p>社会的養護出身の子どもたちへの進学を支援として、給付型奨学金制度として活用いたします。</p>	<p>緊急支援に対応するための特別基金 4 災害復興支援特別基金</p> <p>災害発生時、現場で活動するNPOやボランティアの活動費の支援を行なっています。</p>
<p>アスリートと進める子どもの支援 5 HEROs FUND</p> <p>世界で活躍するアスリートたちによる社会貢献活動を支援します。</p>	

◇チャリティー自販機設置メリット

<p>1本につき10円の社会貢献が気軽に出来ます。</p>	<p>看板にもなるオリジナルデザインを無料で作成します。</p>	<p>CSR活動にスタッフ全員が直接参加出来ます。</p>	<p>省エネ機を採用。電気代とCO2が削減できます。</p>	<p>災害救援型自販機の設置も可能です。*</p>	<p>税制優遇(損益算入)を受けることができます。</p>
-------------------------------	----------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	---------------------------	-------------------------------

*設置先によっては、ご要望に添えない場合があります。

◇お金の流れ

売上代金は飲料メーカーが回収し、自販機設置者の皆様に設置手数料が振り込まれます。売上代金から1本10円が日本財団へ寄付されます。



飲料メーカーが売上代金を回収します。

設置者様と日本財団へ振り込まれます。

◇寄付金の透明性

寄付金の使途やプロジェクトの進捗状況のほか、決算報告などの情報を公開しています。



チャリティー自販機のPRスペース、活動報告書、ホームページで活動状況を報告します。



日本財団公式ホームページにて情報公開中

◇チャリティー自販機推進担当者の紹介



前田 勝也
Maeda Katsuya

【出身地】宮崎県
【趣味】バイク・昭和あれこれ・家族写真
【特技】加齢談義・バイク談義・ちょっと遅れる

日頃より大変お世話になっております。
お陰様で日本財団チャリティー自販機も約8,000台となり誠にありがとうございます。本年度は寄付額で3億突破を目指しております。引き続き日本財団寄付文化醸成事業へのお力添えよろしくお願いたします。



町田 和久
Machida Kazuhisa

【出身地】群馬県
【趣味】スポーツ観戦・日本史・日本経済
【特技】蕎麦打ち・野球・5mダッシュ

いつも日本財団チャリティー自販機へのご支援心より御礼申し上げます。自動販売機で飲料を購入するだけで、できる社会貢献活動。多角的な視点で支援の輪を広げ「みんながみんなを支える社会」を目指します。皆様のところへ、ご訪問させていただく際は、どうぞよろしくお願いたします。



矢野 浩
Yano Hiroshi

【出身地】徳島県
【趣味】ポートルース万舟券収集
【特技】パスワードを忘れる事

日頃より日本財団チャリティー自販機へのご支援、ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。お陰様で台数も約8,000台となりました。社会課題解決に御参加いただける日本財団チャリティー自販機をお世話になっております皆様のところへお伺いさせていただいておりますので、その折にはどうぞよろしくお願いたします。

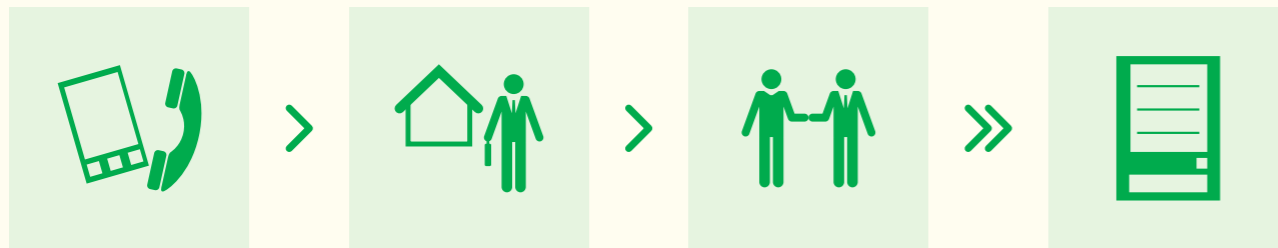


佐藤 優至
Sato Yuji

【出身地】東京都大田区→横浜
【趣味】キャンプ・サッカー・お酒
【特技】笑い上戸・泣き上戸

チャリティー自販機パートナーの皆様、いつもご支援いただきありがとうございます。お陰様でチャリティー自販機の設置台数も約8,000台を越えて、活動を継続・拡大に繋げることができております。2019年度も台風などの災害も多く、また子どもたちへの課題解決など、多くの社会課題解決に繋げることができました。これからも参加型の社会貢献として、ご支援のほどよろしくお願いたします。

◇チャリティー自販機のお申込みから設置までの流れ



お気軽にお電話ください。
設置のご相談やご希望のメーカーなどをお聞きます。

飲料メーカーからお客様へご連絡をさせていただき、現地に伺います。

飲料メーカーと契約成立
※飲料メーカーと条件が合わない場合、日本財団より別の飲料メーカーをご紹介します。

設置完了！
1本につき10円の社会貢献になります。

既設の自動販売機も「チャリティー自販機」に替えることができます。

いまある自動販売機のまま、「チャリティー自販機」に切り替えることが可能です。また、他社の自動販売機に変更し、「チャリティー自販機」にすることができます。

お取り扱い可能な飲料メーカー

全ての飲料メーカーでお取り扱い可能ですので、ご希望のメーカーがありましたらお聞かせください。

お取り扱い可能な飲料の種類

缶、ペットボトル、カップ、紙パックなど、設置場所に合わせた、多彩な自動販売機をご用意しております。

TOOTH FAIRY



日本全国
6,806医院
参加

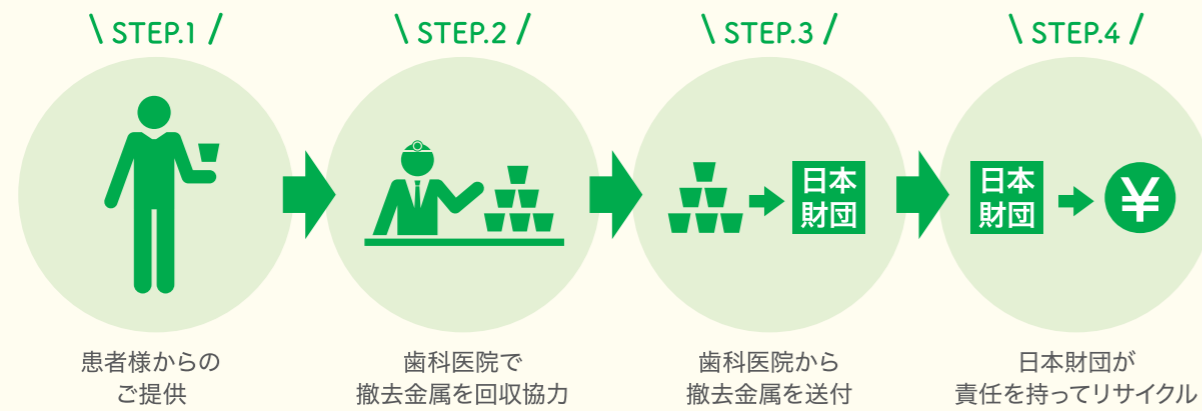
累計金属リサイクル等金額
17億円
以上

金歯や銀歯での社会貢献 トウス・フェアリー

TOOTH FAIRYプロジェクトはこの活動に共感した歯科医院が、患者様の協力により集めた金属をご提供いただくことにより進めてまいりました。金歯や銀歯が、支援を必要としている子どもたちへ、「夢」や「希望」という大きな力となって届いています。

◇活動の概要

TOOTH FAIRYの仕組み



支援プロジェクト

<スクールプロジェクト> <チャレンジキッズプロジェクト>

ミャンマー等
途上国における
学校建設支援
(国外)

▶P12

難病の子どもと
その家族の支援
(国内)

▶P19

TOOTH FAIRY プロジェクトに寄せて

日本歯科医師会が協力し、日本財団が主体となって実施している「TOOTH FAIRYプロジェクト」は、不要になった歯科撤去金属を患者様のご理解の下に歯科医療機関が提供し、得られた資金によって活動を行っています。参加歯科医療機関数は6,800超、総額は17.7億円に達し、本年で12年目を迎える大規模プロジェクトに発展しました。

歯科医師だからできるこの社会貢献活動により、難病や障がいを抱える子ども達とご家族への支援事業や、ミャンマーでの学校建設事業が展開されています。また、資金面のみでなく、現地における歯科医師による歯みがき指導などのボランティア活動も積極的に行われています。

支援活動は継続が重要であり、更に多くの歯科医療機関が参画し、本活動が少しでも多くの社会貢献に繋がることを心から祈念いたします。



公益社団法人 日本歯科医師会
会長 堀 憲郎氏

TOOTH FAIRYプロジェクト実績

2019年度金属リサイクル/現金寄付総額：221,014,390円

累計金属リサイクル/現金寄付金額：1,779,292,566円

参加歯科医院数：6,806医院

(2020年3月31日現在)

2019年度も
沢山のご提供を
ありがとうございます。



1. チャレンジキッズプロジェクト(難病児とその家族の支援)

1) 病院、施設、自宅での子どもの成長を支える取り組み 5事業

TOPIC

認定特定非営利活動法人
シャイン・オン・キッズ(東京都)

活動内容:

専門的に訓練された犬(ファシリテッドッグ)と医療資格(看護師)のあるハンドラーが小児医療現場に常勤し、長期入院を余儀なくされている小児がん、重い病気の子どもが自身の治療を前向きに捉え、自尊心を保てるよう“心のケア”を実施します。
これまで、静岡県立子ども病院、神奈川県立子ども医療センターで活動をしており、2019年度は新たに、東京都立小児総合医療センターでも活動を行うことになりました。



東京都立小児総合医療センターでの就任式

2) 旅行やキャンプ等を通じた子どもと家族を支える取り組み 6事業

TOPIC

社会福祉法人東大寺福祉事業団
奈良親子レスパイトハウス(奈良県)

活動内容:

2014年度TOOTH FAIRYにて施設改修を行った、東大寺境内にあるレスパイトハウスを活用し、親子で楽しめる日帰りレスパイト旅行および宿泊レスパイト旅行を提供しました。



屋外でいきいきとした表情に

3) 難病の子どもと家族のための施設等を整備する取り組み

TOPIC

公益社団法人
難病の子どもとその家族へ夢を(東京都)

活動内容:

2017年度に決定した事業で、2020年3月、沖縄県国頭郡恩納村に新たな施設が完成いたしました。沖縄のきれいな海の近くで、子ども家族も日常から少しはなれて、ゆっくりくつろげる施設となっています。



竣工式の様子

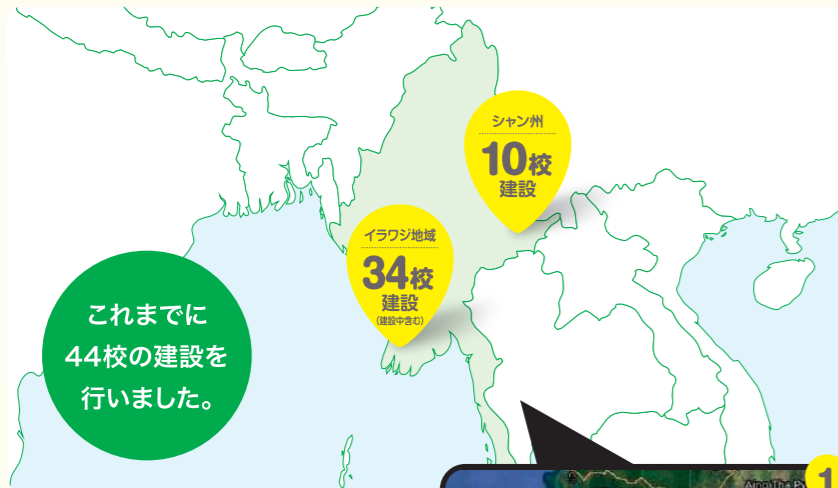
これまでに全国で8か所の施設整備を行うことができました。なお、難病の子どもと家族を支えるプログラムに関しては18ページにて詳細を記載しております。

- 北海道
- 宮城県
- 栃木県
- 山梨県
- 奈良県
- 兵庫県
- 熊本県
- NEW/ 沖縄県

2. スクールプロジェクト ミャンマー学校建設支援

2019年度は、ミャンマー連邦共和国
イラワジ地域に4校の学校を建設いたしました

開発途上国の貧困解決には、基礎教育支援が重要ですが、同時に村落の開発支援を行うことも非常に大切です。学校の維持運営には、修繕費の確保、教師の確保など継続的な資金が必要です。TOOTH FAIRYでは、校舎の建設費の1/4を自己負担させ、建設協力も行わせることで、自立運営への意識づけを行います。



1 アワインジャウンズ中学校



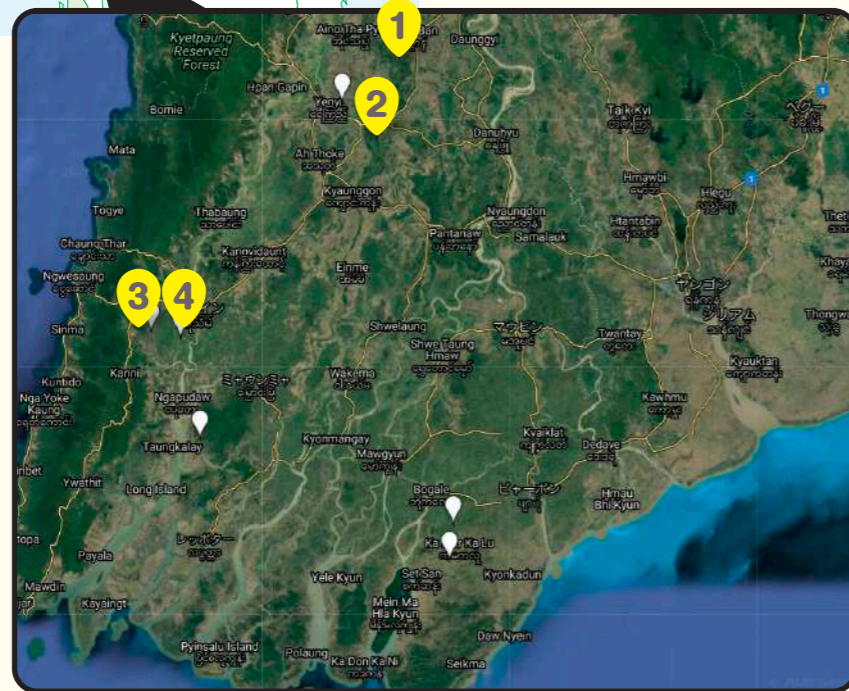
2 レーゼイ高校



3 ベーネークイン中学校



4 チェツパウン高校



建設校概要

学校名	備考
[1] アワインジャウンズ中学校(ヒンダダTS)	生徒数：小学校137人、中学校135人 / 先生：13人
[2] レーゼイ高校(ジョンピョーTS)	生徒数：小学校181人、中学校507人、高校217人
[3] ベーネークイン中学校(パテインTS)	生徒数：268人 / 先生：10人
[4] チェツパウン高校(パテインTS)	生徒数：1,000人 / 先生：31人

3. 歯科ボランティア

難病や障がいを抱える子どもたちは、むし歯や歯周病などの歯科的疾患や外傷、摂食機能障害などを抱えるケースが多く、口腔ケアに特別な配慮を必要としています。また、ミャンマーの学校建設では建設地では、ほとんどが無歯科医村でありむし歯の子どもたちも多く、口腔ケアや予防の知識が十分に行き届いていないのが現状です。

このような子どもたちへ、直接ボランティア活動を行うことで、子どもたちの歯科の知識や家族への理解がより深まります。金属の提供という資金援助だけでなく、歯科ボランティア技術協力の両面から国内外の子どもたちを支援する社会貢献活動となっています。



ミャンマー口腔ケアボランティアツアーに参加いただいた先生方

1) 難病児キャンプ 口腔ケアボランティア

2019年度は、11名の歯科医師・衛生士の皆様にご協力いただきました。



子どもたちの口腔チェックをする歯科医師・衛生士



丁寧な口腔チェックをしていただきました

2) ミャンマー口腔ケアボランティア

2019年度は12名にご参加いただきました。

また、ライオン株式会社様より720本の歯ブラシをご提供いただき、現地の方々にお渡しいたしました。



むし歯の子どもたちも多く、個別に歯磨き指導を実施



ライオン株式会社様より歯ブラシのご提供

CHILD SUPPORT PJT



子どもたちの
第三の居場所

全国100カ所の
整備を目指す

子どもの貧困対策支援

日本財団では、2016年から行政や地域、その他民間のパートナーと協働し、地域の子どものもう一つの家である「第三の居場所」の設置を進めています。「第三の居場所」では、専門的な研修を受けたスタッフが、子どもたちへ学習支援だけでなく、生活のリズムをつくり、手洗いや歯磨き、栄養のある食事や挨拶など基礎的な生活習慣の支援も行っています。

◇寄付歯科医院の声

ボランティアを通して歯科保健を届けたい

ミャンマーへの歯科ボランティアツアーには、第2回から継続して参加しています。TOOTH FAIRYの活動は、ミャンマーでもかなりの地方、僻地と言ってもいいような農村で行われています。電気・水などのインフラがない状態でも、地域の住民は教育に非常に熱心です。ここで学校を建設するだけでなく、地域を巻き込んで活性化を促し、生活の向上をはかるというのがTOOTH FAIRYの活動です。

私たちは建設された学校を訪問し、保健活動を通じて住民と交流してきました。この活動はハードを作っておしまいでなく、継続して地域の面倒を見ているところに素晴らしさがあると感じています。スタッフの努力には感嘆するものがありますが、ぜひ継続発展して欲しいと思います。撤去冠がこのような形で役立つという素晴らしい仕組みを、大威張りで患者さんに説明できません。個人的には、この学校を通して歯科保健を届けられたらと思っています。



前田歯科医院 前田龍一先生

TOOTH FAIRYの協力歯科医師会として活動を

私たち公益社団法人東京都目黒区歯科医師会は平成25年に公益法人化し、区内唯一の歯科系公益法人として活動しています。

地区歯科医師会として、地域住民に対する医療・公衆衛生の向上に寄与することは勿論のことですが、地域を超えた幅広い社会貢献の一つとして、TOOTH FAIRY事業への協力や書き損じハガキの寄付などの呼びかけなどを行なっています。

今後も社会貢献を志向するTOOTH FAIRYの協力歯科医師会として、活動してまいります。



公益社団法人
東京都目黒区歯科医師会様

全国の歯科医師、患者様からのご協力のもと、
国内外の子どもたちへ笑顔を届けていきます。

◇支援現場の声

自分で歩いていくためのひとつの力になってほしい

本事業に多くのご支援をいただき誠にありがとうございました。尼崎拠点では、初めて一泊二日の旅行にチャレンジしたり、料理イベントとアートワークを一年間毎月実施するという取り組みを実施しました。各行事それぞれで、子どもたちの変化をたくさん感じることができました。たとえば料理のイベントでは、はじめは自信がなさそうに取り組んでいた子どもが、回を重ねる毎に上達し、自信がつくと年下の子や苦手な子に教える姿が見られました。年度末に子どもたちと一年を振り返ったときに「〇〇がおいしかった！もう一回作りたない」「この時の△△おもしろかったな」と、良い思い出として記憶に残っていることがよくわかりました。このような体験は、その時々楽しいという体験だけではなく、子どもたちが大きくなったときに心を温めてくれたり、背中を押してくれたりするのだと思います。それぞれの子どもたちが、これから自分の人生を自分で歩いていくためのひとつの力になってほしいと思いつつ、今後も活動を続けてまいります。



尼崎拠点マネージャー
作田 遥さん

経験が子どものやる気につながる

2019年度中は、沢山のご支援をいただき誠にありがとうございました。うるま拠点では「子どもが子どもでいられるところ」をコンセプトとして活動しております。普段「どうせ〇〇」などすぐに諦めてしまうような状況下にある子どもたちも、この支援のおかげで子どものやりたい事を子どもたちと一緒に形にすることが出来ました。「いいね！やってみよう」と色々経験することで「できない…」が「やってみよう！」に変わっていく様子が見受けられました。春のキャンプ、けん玉、ベーゴマ、様々な体験・経験が沢山できました。そして満面の笑みで活動する子どもたちを見ながら、これからも子どもの声にしっかり耳を傾け活動していきたいと思っております。



うるま拠点マネージャー
平林 勇太さん

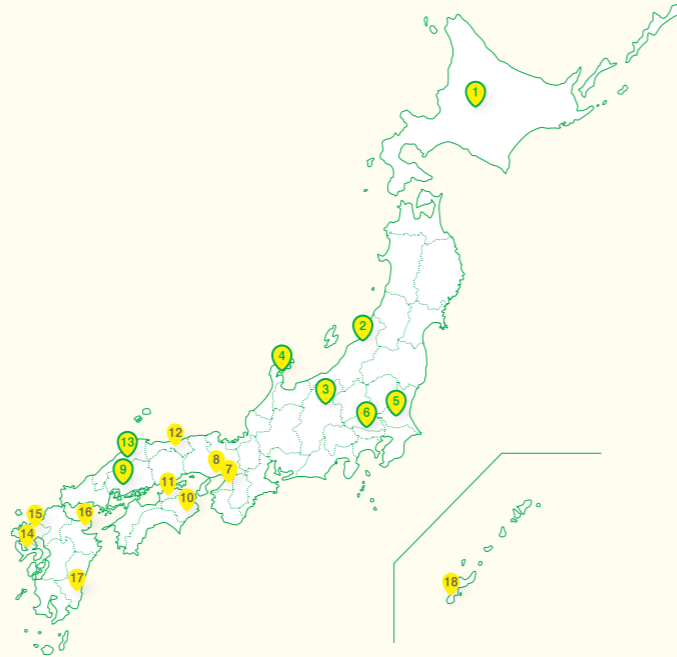
今後、全国に100カ所を目指して第三の居場所を建設し、地域のNPOなどと協力しながら運営していく予定です。

◇第三の居場所の整備

2019年度には新たに15カ所(緑文字)が開設し、全国に30カ所の第三の居場所が整備されています。

第三の居場所	
[1]北海道：東神楽拠点(2)	[10]徳島県：鳴門拠点
[2]新潟県：胎内拠点	[11]香川県：丸亀拠点
[3]長野県：大町拠点、長野拠点、御代田拠点、諏訪拠点、松川拠点	[12]鳥取県：鳥取拠点
[4]石川県：穴水拠点	[13]島根県：雲南拠点
[5]茨城県：笠間拠点	[14]長崎県：大村拠点
[6]埼玉県：戸田拠点、和光拠点、嵐山拠点	[15]佐賀県：唐津拠点
[7]大阪府：箕面拠点	[16]大分県：杵築拠点
[8]兵庫県：尼崎拠点(3)	[17]宮崎県：宮崎拠点
[9]広島県：尾道拠点(2)、廿日市拠点	[18]沖縄県：うるま拠点(2)

全30拠点(2020年3月末時点)
※2019年度開設拠点15カ所は緑文字にております。 ※()内の数字は複数拠点がある道府県



◇第三の居場所におけるイベントの実施

「私は夏休みは〇〇に行ったの」「僕は△△だよ」

夏休み明けにごく普通に聞こえてくる子どもたちの会話ですが、この会話に入れず居心地悪く感じている子どもたちもいます。これまで家族旅行やお出かけをする機会があまりなかった第三の居場所に通う子どもたちです。第三の居場所事業では通常の学習支援・生活支援に加えて、支援して下さる皆様からの寄付金を活用し、長期休みに旅行やイベント体験の機会を提供しています。

沖縄への合同旅行(西日本10カ所の拠点)

2019年7月末、西日本10拠点の第三の居場所から約80人の子どもたちが二泊三日の沖縄県の離島・渡嘉敷島へ合同旅行を行いました。子どもたちは、5歳から12歳まで年齢も様々。きれいな海で遊泳や巨大カヌーを楽しみ、貝殻を利用した工作や天体観測等、沖縄の自然を満喫しました。最終日には宿舎の掃除をした後、本島のおきなワールドを観光しました。所定のお小遣いが渡され、「お母さんがいつも持っていられたお守りがいい」「お父さんにおつまみを買いたいけどお金が足りない」と、家族に買えるお土産選びに真剣でした。



沖縄の海でのレクリエーション

◇日本財団子どもの貧困対策 オフィシャルパートナー

日本財団と「子どもの貧困対策オフィシャルパートナーシップ」を締結していただいたパートナー企業様の様々なご寄付にも支えられています。



CTC
Challenging Tomorrow's Changes

各拠点にお米とお茶のご寄付
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社様

CTCの特例子会社「CTCひなり」が提携している農家のお米3.6トン、お茶18キログラムのご寄付をいただきました。



SONY

「感動体験プログラム」の実施
ソニー株式会社様

ソニーグループの技術やコンテンツを活用した多様なワークショップを通じて、子どもたちに感動体験を提供していただきました。また、3月には新型コロナウイルス感染症対策のために、2,000枚ものマスクを寄贈いただきました。

CHILD SUPPORT PJT



全国に
22拠点
設置

30のモデル拠点
整備を目指す

難病の子どもとその家族の支援

医療技術の進歩によって救える命が増える一方で、一命を取り留めたものの、重い障がいが残ったり、人工呼吸器などの医療的ケアを必要としたり、難病を抱えて暮らす子どもが増えています。現在、難病の子どもは全国に25万人以上、医療的ケアが必要な子どもは2万人以上。

また、常に生命の危険と隣合わせの難病の子どもへの看護に24時間追われる家族は、社会からの「孤立」を感じることも少なくありません。日本財団は、難病の子どもや家族がいつでも安心して頼れる繋がりができるよう、全国に支援施設の建設などを行っています。

◇難病の子どもと家族の支援施設の建設

難病の子どもと家族を地域の医療・福祉・教育専門職らが連携して支える「日本財団地域連携ハブ拠点」の建設を進めています。2019年度は香川に1拠点、沖縄に2拠点が開所しました。

日中お預かり施設	
[1] あっと名取(宮城県名取市)	[6] 障害児保育園ヘレン初台(東京都渋谷区)
[2] うりずん(栃木県宇都宮市)	[7] ほわわ名古屋星ヶ丘(愛知県名古屋)
[3] Burano(茨城県古河市)	[8] くるみの森(富山県高岡市)
[4] フラットヴィレッジ(千葉県白井市)	[9] サルビアの家(山口県下松市)
[5] FLAPYARD(東京都足立区)	[10] ばんぶぎん(熊本県熊本市)

キャンプ、旅行を楽しむレジャー、宿泊施設	
[11] そらぶちキッズキャンプ(北海道滝川市)	[13] 奈良親子レスパイトハウス(奈良県奈良市)
[12] あおぞら共和国(山梨県北杜市)	

宿泊可能施設	
[14] バンダハウス(福島県福島市)	[19] 博愛こども発達在宅支援クリニック(鳥取県米子市)
[15] もみじの家(東京都世田谷区)	[20] Kukurū+(沖縄県那覇市)
[16] TSURUMIこどもホスピス(大阪府大阪市)	[21] 青と碧と白と沖縄(沖縄県国頭郡)
[17] チャイルド・ケモ・ハウス(兵庫県神戸市)	[22] 在宅療養ネットワーク(香川県高松市)
[18] ボンボン(熊本県合志市)	

全22拠点(2020年3月末時点)
※2019年度開設拠点3カ所は緑文字にております。

2019年度開設拠点3カ所



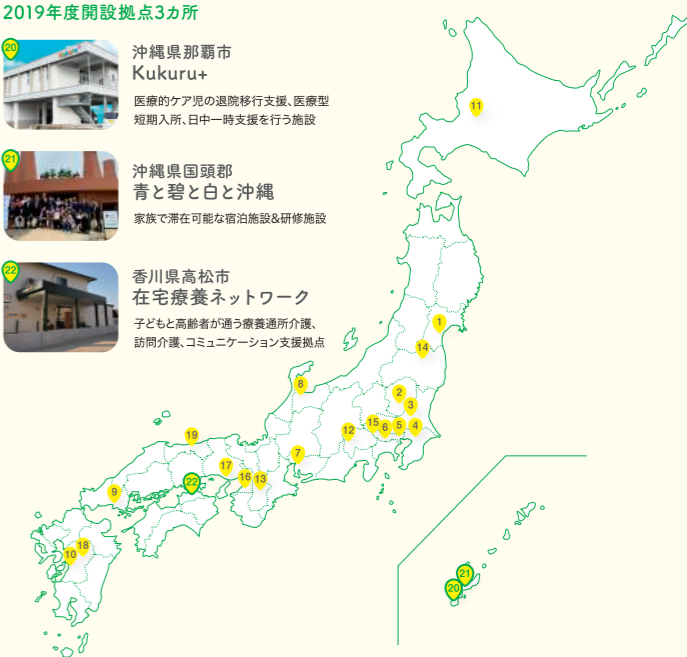
沖縄県那覇市
Kukurū+
医療的ケア児の退院移行支援、医療型短期入所、日中一時支援を行う施設



沖縄県国頭郡
青と碧と白と沖縄
家族で滞在可能な宿泊施設&研修施設



香川県高松市
在宅療養ネットワーク
子どもと高齢者が通う療養所介護、訪問介護、コミュニケーション支援拠点



◇入院中の子どもを支える活動

感染症のリスクの不安があったり、常に重い呼吸器などの医療機器の準備が必要な難病の子どもと家族の外出機会は少ないため、本プロジェクトでは子ども病院に専門のトレーニングを受けたファシリテードッグといわれる犬やクラウン(道化師)を派遣する事業、移動型のプラネタリウムが訪問する事業、劇団四季や宝塚歌劇団出身のプロのパフォーマーがミュージカルを届ける事業などを支援しました。



移動型プラネタリウムの訪問事業



ミュージカルを届ける事業

◇子どもの遊びを支援する活動

2019年度は、東京おもちゃ美術館との共同事業「あそびのむし」プロジェクトを実施しました。難病の子どもや家族、「日本財団地域連携ハブ拠点」に常駐する看護師や保育士などの専門スタッフ、おもちゃのプロであるおもちゃコンサルタントなど、当事者と専門家の声を取り入れながら、難病の子どもと家族、お友達、そして支援者が一緒に遊べる世界中から取り寄せたおもちゃのセットボックスが完成しました。



世界中から取り寄せたおもちゃのセットボックス

◇支援現場の声

緊張していた息子も次第に笑顔で楽しんでいました

大きな音が苦手な息子。それを知ったクリニックは小さな手回しのオルゴールを用意してくれました。はじめはドキドキして固まっていた息子も、オルゴールを鳴らすお手伝いをさせてもらううちに笑顔になり、最後は自分から音楽に合わせてマラカスを振って楽しんでいました。

入院生活を頑張る息子の笑顔の思いがけないところで見ることができ、とても嬉しかったです。とても自然な形で息子の心に飛び込んできてくれたクリニックの笑顔がとても印象的でした。笑顔という力の凄さを感じることができました。親子共に幸せな気持ちにさせていただきありがとうございます！これからもたくさんの人たちを笑顔にしてください！！



難病児と家族のイベント参加者の母親より

他にも嬉しい感想をいただきました



難病と闘う子どもとその家族が、
笑顔になれるよう支援の輪を広げていきます。

CHILD SUPPORT PJT



計75名の
学生が参加

子どもサポートプロジェクト
社会的養護のもとで暮らした若者への進学支援

日本財団では、社会的養護のもとで暮らした若者を対象に、学費全額に加えて生活費や住居費もサポートし、勉強やサークル活動といった学生としての経験を収入のためにあきらめず、できるだけ多く積んでもらうようにするために奨学金を創設しました。皆様からのご寄付が、苦しい環境で育っても夢に向かい前に進もうとする若者へ、大きな力となって届いています。

◇日本財団「夢の奨学金」について

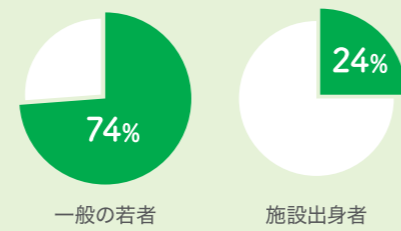
■社会的養護の子どもの進路実情

原則として18歳を迎えると、児童養護施設や里親家庭など、それまで暮らしていた場所から出て行かなくてはならない現状があります。こうした若者は全国で毎年1,800人ほど。その多くが住居費や生活費を捻出するために就労を余儀なくされます。経済的な理由に加え、体力的・精神的な疲労から進学をあきらめたり、進学しても長く続かなかったりするケースが、一般の若者に比べて圧倒的に多く見受けられるのが実状です。

■「夢の奨学金」

- ①対象となる若者の進学や就職に対する入学金・授業料、生活費、住居費の給付
金銭的理由でアルバイトばかりの生活になってしまうのでは無く、勉強やサークル活動など学生としての経験をあきらめず、できるだけ多く積んでもらうようにするため
- ②ソーシャルワーカーによる精神的ケア、卒業や就職サポート
- ③交流会の開催(年3回)、活動報告会の実施(年1回)

■現状の進学率(大学や専門学校)



奨学生同士、笑顔で意見交換する姿も

◇これまでの実績

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
2016年 4月～	2017年 4月～	2018年 4月～	2019年 4月～	2020年 4月～
1期生 11名を 採択※1	2期生 15名を 採択※2	3期生 17名を 採択	4期生 19名を 採択	5期生 13名を 採択

※1:パイロットプロジェクトとして中京地区にて実施(ノウハウ構築、制度改善)
※2:対象を全国へ拡大



◇2019年度の主な活動

●2019年12月4日に開催された『BLFチャリティートーク2019』にて、福岡ソフトバンクホークス和田毅選手をはじめとする6名のプロ野球選手の皆様より、「日本財団夢の奨学金」にご寄付をいただきました。イベントのチケット代の一部とフォトセッション時の募金830,941円をご寄付いただきました。

●東京マラソン2020チャリティに参加し、182名のチャリティランナーの方々から合計で28,687,001円のご寄付をいただきました。残念ながら新型コロナウイルス感染拡大のため、チャリティマラソンは中止となってしまいましたが、来年度の開催にむけて、引き続き応援させていただきます。



BLF寄付イベント

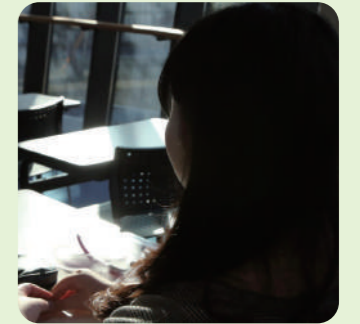
◇奨学生の声

遠い世界だった夢が現実に

こんにちは。無事に先日学校を卒業して、今日、国試の合格発表だったんですが、合格することができました。ここまでこれたのは、夢の奨学金があったからって自信を持って言えます。学校も優秀賞で卒業することができました。施設を退所して、働いてたときは進学なんて夢のまた夢で、看護師なんて遠い世界でした。

この奨学金をいただくまでは、いつ死んでもおかしくないような生活でした。でも、この奨学金があったから私は生き直すことができ、前を向いて歩いて、自分の人生をいま生きることができています。たくさん初めての経験ができて、初めて幸せを感じ、生きてよかったって心から思います。優秀賞をいただいたのも、学費だけでなく、家賃や生活費のサポートをしていただいたから学業に集中して取り組めたお陰です。

それに、なんでも話せて、共になんかがんばりあえる奨学金の仲間とサポートしてくれる亜美さんや財団の職員の皆さんがいたからです。お金じゃここまで来れなかったと思います。それぞれ違う目標だけど、切磋琢磨しあえる仲間の存在にどれだけ救われたかわかりません。また見ず知らずの人が私たちのために、大切なお金を寄付してくださっている。ということにどれだけ勇気をいただいて、それが頑張る励みになったか…。人の温かさをこんなにも感じるができるなんて思ってもいませんでした。本当に感謝しかありません。いろんなことがあったけれど、夢を叶えるサポートをしてくださったことを心から感謝しています。本当にありがとうございました。



マロニエ医療福祉専門学校
Mさん(第2期奨学生)

自分の力で何とかしたいと思った

他の奨学金に比べて、とにかく金額が大きいのでびっくりしました。応募することにしましたが、基本的に「不安がり」なので、結果が来るまでドキドキしっぱなし。応援してくれていた里親さんはこの時、本当にありがたいことに『(学費を)出してあげようか』と手を差し伸べてくれようとしたんですが、自力で何とかしたいと思いました。もちろん、お金はありがたいです。でも、僕にとっては、奨学生同士の交流の場があることが、本当にありがたい。交流会に出ることで、自分では持っていない視点を、奨学生仲間からたくさん得られています。



HAL名古屋専門学校
河原崎光希さん(第3期奨学生)

DISASTER RECOVERY



災害が起きたとき
真っ先に
動くために

災害復興支援

日本財団は2014年3月、東日本大震災などにおける災害復興支援活動の経験から、大規模な災害が発生した際に民間の立場で迅速な緊急支援を実施することを目的として、「災害復興支援特別基金」を立ち上げました。2019年度も、災害発生後すぐに現地に職員を派遣し、自治体やNPO等と連携しながら、現場のニーズに合った支援を行うことができました。

◇日本財団の災害復興支援

東日本大震災の最大の教訓は、災害対策は起きてからでは遅いということです。大災害が起きたとき、真っ先に動くための支援金を蓄えておく仕組みが必要です。

※「支援金」とは、被災者の方に直接送られる「義援金」とは違い、被災地でさまざまな支援活動を行う団体が被災者を助けるために活用されるものです。大規模な自然災害が発生した場合、被災地ではインフラの復旧などの行政による活動と同時に、民間の視点による被災者に寄り添ったきめの細かい支援活動も欠かせません。

支援金とは



救命・復旧活動	使われる
配分	支援団体が使い道を決定
被災地に届くまで	すぐに届く

義援金とは



救命・復旧活動	使われない
配分	被災者に公平に配分
被災地に届くまで	時間がかかる

◇2019年度の主な活動

令和元年九州北部豪雨（2019年8月28日）

◎被害

九州北部を中心に発生した大雨は、佐賀県を中心に多くの県で土砂災害、河川の氾濫、洪水、浸水などにより、住家被害として、床上浸水で約1,800件、床下浸水で約3,100件の被害をもたらしました。

◎支援活動

記録的豪雨によって工場から油が流出し、畑や住宅を襲う深刻な被害となりました。油が染み込んだ畑や水田が回復するにはかなりの時間を要します。

そんな畑の用水路や近隣の住宅で、油の染み込んだ土や泥水を掻き出すために、学生ボランティアが活動しました。



泥水を掻き出す学生ボランティア



土嚢袋を片付ける学生ボランティア

台風15号(2019年9月9日)

◎被害

台風15号は強風の被害が特徴でした。9月9日早朝に神奈川県三浦半島付近を通過した後、千葉市付近に上陸しました。総務省消防庁のまとめでは、災害関連死を含めると千葉県で2人、東京都で1人が亡くなりました。

◎支援活動

・壊れた屋根にブルーシートを張る作業を、災害ボランティア「愛・知・人」が、屋根のブルーシート張りの講習会を開催し、復興支援を行う自衛隊に伝授しました。

・ガラスハウスが全壊し、修復に数千万円の費用がかかることや高齢のため、40年続けたカーネーション栽培をやめることにしたご夫婦。畑を更地に戻す必要があり、学生たちがその作業を担い300平方メートル余りの土地を平らに整えました。



「愛・知・人」のメンバーが講習会を開催



カーネーションの一覧を見せてくれた奥様



学生ボランティア活動の様子

台風19号(2019年10月12日～13日)

◎被害

19号は大雨を各地に降らせました。10月12日夜、非常に強い勢力のまま伊豆半島地方に上陸した後、関東地方を通過。13日未明に東北地方から海上に抜けました。関東甲信地方で記録的な雨となり、12～13日にかけて13都県で大雨特別警報が発表されました。消防庁によると、10月25～26日の大雨を含めると全国で死者99人、行方不明3人にのぼりました。都道府県別では福島県が最も多く32人。次いで宮城県19人、千葉県12人でした。



◎支援活動

・日本財団は発災後すぐに現地へ駆けつけ、行政と連携し災害復旧に向けて活動しました。家屋や車など様々な漂流物の問題を解決のために移動や、大量の土砂の撤去などを行いました。

・長野県内は千曲川周辺で広範囲な水害があり、学校が相次いで被害を受けました。長野俊英高校も泥が流れ込み、1週間休校に。日本財団の支援で、マットやロイター板、サッカーボールなどを購入しました。



夜遅くまで情報交換をするボランティアの方々



泥が流れ込んだ体育館



瓦礫の搬出は深夜まで続いた



ご寄付により購入したマット

◇支援現場の声

東日本大震災で被災した経験を話す「語り部」としても活動しており、全国に出向いて被災した経験を伝えるほか、災害時は重機を扱ったり、被災者と直接会って地域のニーズを調べたりする活動をしてきました。

支援活動を行っていくには、町の災害復興の過程を知っている人を増やすことが重要です。私たちのようにチームとして支援をしてきた経験を若い世代に受け継いでもらいたい。そして、つらい思いをした人のために何ができるのか、常に考えて行動することが被災者の心のレスキューにつながります。何度も変化を繰り返す住民さんの心に寄り添うことが、一番大切です。

一般社団法人OPEN JAPANの
業務委託スタッフ
萬代(ばんだい)好伸さん

台風19号の被災者やボランティアの疲れを癒やそうと、茨城県鍼灸師会は被災直後の10月末から11月初旬にかけて、鍼や灸、マッサージを計6日間、延べ200人以上に施しました。

マッサージをしている間は被災者の話を聞く時間でもありました。被災した苦しさは、身近な人には言えないけれど、私たちのような外から来た人には言いやすいのかもしれない。話を聞くことが心のケアにもなったと思います。被災者の方に喜んでもらえることは何かを考え、勉強して、またボランティアに臨みたいです。

茨城県鍼灸師会
大高達雄会長

台風19号被災後すぐ、丸森町に入って土砂をかぶったままの木を見て、なんとかしたいと思いました。

神社の整備は住宅と違い、後回しにされがちです。でも、このままがれきに覆われていると、木が根から腐って倒壊などの二次災害が起きる恐れもあります。

早く土砂を取り除かないと、と思いました。それに木の根は水を吸ってくれます。大量の雨が降ったとしても、水の行き場ができることで地域を守ってくれます。木を守ることが、水害に強い地域づくりにつながります。

NPO法人スマイルシード
理事長 黄本富士子さん

HEROs

～ Sportsmanship for the Future ～



アスリートが社会とつながり活躍できる仕組み

スポーツの力で社会課題の解決を加速させる

HEROsでは、アスリートが社会貢献の先頭に立つことで、スポーツでつながる多くの方の社会課題への関心や行動を生み出し、社会課題の解決の輪を広げることを目的に活動しています。

皆様のご寄付はアスリートとともに進める社会貢献活動に活用させていただきます。

◇HEROs ACTION

HEROsアンバサダーが中心となり、競技を超えたアスリートたちが連携を広げながら新しい社会貢献活動を実践していきます。

少年院プロジェクト

少年院生の再犯を防ぎ、立ち直るきっかけを作ることを目的としたプロジェクト。HEROsアンバサダーで、WBA世界ミドル級現役王者の村田諒太選手などトップアスリートが少年院を訪問し、スポーツから学んだ「挫折を跳ね返す力」や「チャレンジ精神」を院生たちに伝えています。



八街少年院の少年たちにエールを贈る村田選手



椋名女子学園の少女たちに講義するプロサーファー アンジェラ・磨紀・バーノンさん

HEROs FESTA2019



献血・骨髄ドナー登録に協力する柔道日本代表監督 井上康生さん

2019年11月、渋谷区代々木公園で一般社団法人SNOWBANKとHEROsが協働し、「東京雪祭×HEROs FESTA2019」を開催。人口雪を降らせた特設ゲレンデと、トップアスリートと交流できるHEROsエリアに2日間で8万人の来場者が訪れました。様々な競技からトップアスリートが参加し、子どもたちを直接指導しました。また、会場には「献血・骨髄バンクドナー登録コーナー」や「長期療養する子どもへのチャリティーブース」を設置。「AEDの使い方教室」や「パラスポーツ体験」なども行われ、子どもたちが楽しみながら社会と繋がるきっかけを作りました。



子どもとハイタッチを交わす元車いすバスケットボール日本代表 根木慎志さん

◇HEROs AWARD 2019

その年最も社会に貢献したアスリートを表彰する「HEROs AWARD」は、スポーツの社会的な価値を広く可視化し、スポーツやアスリートの力を使った社会貢献活動の活性化を目指して開催しています。



北澤豪さんと障がい者サッカー日本代表の皆さん

【受賞者紹介】

一般社団法人日本障がい者サッカー連盟(代表 北澤豪さん)

障がい者サッカーを通じて、差別、偏見、機会の平等などの障がい者を取り巻く課題の解決に取り組む活動が評価され、大賞となるHEROs OF THE YEARを受賞。

「サッカーならどんな障がいも乗り越えられる」を理念として掲げ、障がいの種別や有無に関係なく、サッカーを楽しむ大会「インクルーシブ フットボール フェスタ」を開催するなど、楽しみながらダイバーシティをすすめています。

【その他の受賞者】

- ・熊本地震における復旧・復興支援 巻誠一郎さん(サッカー元日本代表)
- ・紛争・災害下の子どもへの教育支援 井本直歩子さん(アトランタオリンピック競泳日本代表)
- ・家庭内暴力被害者家庭の子どもに対する、スポーツを使ったメンタリングによる支援 一般社団法人Sport for smile(代表:梶川三枝さん)
- ・柔道で育む国際友好プロジェクト 認定NPO法人柔道教育ソリダリティー(代表:山下泰裕さん)

◇支援現場の声

アスリートが子どもたちと地域に希望を届けてくれました

2019年10月に発生した台風19号の上陸による水害発生から3か月が経過し、目に見える場所の日常性は少しずつ回復していましたが、一部の学校では再開ができておらず、地区内の子どもたちに疲れや不安がみられていた時に日本を代表するアスリートたちが鹿沼市に来てくれました。生徒たちはアスリートのやさしい指導と本気のプレイに喜び、驚き、時間を忘れるくらい興奮していました。また、名前を聞いたことがあるけど初めて体験する競技に挑戦したり、アスリートの経験に触れたりすることで「スポーツを通じたチャレンジする大切さ、夢や目標を持つ意味」を教えてくださいました。さらにアスリートたちは官民一体となり復興に向けて努めていることや地域産業である「いちご」のアピールにも協力していただき、スポーツマンシップあふれる気持ちが参加したすべての人を笑顔にしました。このような素晴らしいHEROsを支えてくださっている皆様に感謝いたします。



鹿沼市社会福祉協議会
柴田 貴史さん

被災した子どもたちに笑顔を（令和元年東日本台風災害支援）

サッカー元日本代表の巻誠一郎です。今回私たちは、2019年に発生した台風19号で甚大な被害を受けた栃木県鹿沼市の子どもたちに笑顔を届けようと、HEROsでつながったアスリート13名で訪問しました。私自身、2016年4月に地元熊本で発生した大地震で被災しました。多くの方が亡くなり、物流が止まり、避難所には人があふれかえっている状態でした。いても立ってもいられなくなり、仲間とともに避難所を回り、必要な物資を届けました。このとき力になってくれたのが、日本中のサッカーファミリーです。SNSで呼びかけると、全国から物資や寄付が届き本当に大きな力となりました。また、不安の中で生活した子どもたちを笑顔にしてくれたのがサッカーでした。震災を通して私はスポーツの持っている社会的な力を知ることができました。今回、HEROsから台風19号水害支援のリーダーを任せられ、アスリートの仲間と共に被災地に向かうこととなりました。

栃木県は被害が大きいかかわらず、メディアでの報道が少なく、支援が不足していたことから支援先選ばせていただきました。参加してくれたのはハンドボール元日本代表キャプテンの東俊介さん、車いすバスケットボール元日本代表キャプテンの根木慎志さん、ラクロス元日本代表の山田幸代さんなど11競技、13名の選手たち。「全力で楽しむこと」をルールに、たくさんの競技にチャレンジしてもらい、子どもたちの弾ける笑顔を見ることができました。被災地では先の不安からどうしても暗くなりがちですが、子どもたちの笑顔は、周りの大人たちも笑顔にし、地域を元気にしていく特効薬です。復興への道は長く険しいものですが、子どもたちには逆境を乗り越えてたくましく成長してもらいたいと願っています。被災地に訪問すること、被災地の特産品を購入することでも被災地支援は続けることができます。それぞれができることで「助け合いJAPAN」を作っていきましょう。



サッカー元日本代表
巻 誠一郎さん

スポーツの力やアスリートの力による
社会貢献活動を広げていきます。

COLLABORATION



企業とのコラボレーション

企業や団体とコラボレーションした取り組みなどを一部ご紹介させていただきます。様々なかたちで皆様に関わることができる活動を紹介いたします。

◇企業・団体とのコラボレーション

2019年度も多く企業や団体からご寄付をいただきました。
一部ではありますが、取り組みを紹介させていただきます。



1. ネスレ日本株式会社様

ネスレ日本株式会社様より、熊本地震復興支援のために2018年4月に全国販売した「キットカットいきなり団子味」に続き、2019年6月24日から全国で販売した「キットカット瀬戸内塩&レモン味」から1袋につき10円を寄付いただくこととなりました。寄付金は、平成30年7月豪雨の被災地で支援金として活用させていただきます。



2. LINE株式会社様

LINE株式会社様が推進するCSR活動「LINE SMILE+PROJECT」の一環として、LINE PayとLINEポイントでの寄付や、宮城県仙台市出身で、オリンピック連覇を達成したフィギュアスケートの羽生結弦選手のスタンプの売上全額をご寄付いただきました。



いただいたご寄付は、2019年10月に発生した台風15号や19号の被災地でボランティア活動するための軽トラ3台や軽バン3台の車両に活用させていただきました。また今後発生する災害に備えて、全国で合計26台の配備を進めることができました。



日本財団災害復旧サポートセンター開設



3. ななにー基金

台風15号、19号による災害に遭われた方々への支援のため、稲垣吾郎さん、草彅剛さん、香取慎吾さんと共に、ななにー基金を立ち上げ、寄付の呼びかけを行っていただきました。いただいたご寄付は、日本財団の災害復興支援として、ボランティアの派遣費や現地で復旧作業に活躍する発電機や電動ノコギリなどの機材に活用することができました。



発電機や電動ノコギリ

そのほかにも、企業様よりご寄付いただきました。 ※100万円以上のご寄付いただいた企業・団体様（敬称略）

寄付者名	
ソニー株式会社	キャリアインキュベーション株式会社
中国労働金庫	芦屋町モーターボート競走事業
世界の恵まれない地域に小学校を作る会	蒲郡市
株式会社ワールドパーティー	大村市モーターボート競走事業
ダイハツディーゼル株式会社	一般財団法人全日本剣道道場連盟

痛みも、希望も、未来も、共に。



Share the pain. Share the hope.
Share the future.

◇会計報告（2019/4/1～2020/3/31）

基金名	寄付額(単位:円)	支出額(単位:円)	備考
TOOTH FAIRY	221,014,390	188,010,791	うち金属換金手数料 4,827,071円
日本財団子どもサポートプロジェクト基金 子どもの貧困対策支援	131,331,149	50,765,430	うちチャリティー自販機からの入金 68,018,820円
日本財団子どもサポートプロジェクト基金 社会養護のもとで暮らした若者への進学支援	87,216,601	926,460	うちチャリティー自販機からの入金 35,405,779円
日本財団子どもサポートプロジェクト基金 難病の子どもとその家族の支援	76,508,003	8,519,143	うちチャリティー自販機からの入金 52,142,758円
災害復興支援特別基金	346,038,641	250,514,963	うちチャリティー自販機からの入金 69,102,977円
HEROs FUND	31,469,700	20,154,448	うちチャリティー自販機からの入金 25,498,600円
ななにー基金	71,543,815	35,595,857	
夢の貯金箱	89,116,241	176,449,273	
遺贈基金	456,938,080	140,814,129	
いろはにほん基金	1,322,000	0	事業進行中のため次年度へ繰越
インパール平和資料館 特別基金	536,000	12,287	
「The Nippon Foundation-GEBCO Alumni Fund」基金	426,800,000	0	事業進行中のため次年度へ繰越
社会貢献ポートレース基金	15,000,527	15,000,000	
キリン「絆」プロジェクト	0	5,025,545	
キリン「絆」プロジェクト 熊本地震復興支援基金	0	1,299,362	
海と日本プロジェクト推進基金	25,750,000	27,076,890	
Shibuya Inclusive TOILET基金	0	344,385,630	
日本ベンチャー・フィランソロピー基金	7,729,114	96,022	
キット、願いかなう。基金	4,500,000	4,500,000	
プロバビリティ基金	110,440,000	0	事業進行中のため次年度へ繰越
合計	2,103,253,734	1,269,146,230	

※日本財団チャリティー自販機からの寄付総額 281,719,736円(2019年度)

2019年度もたくさんの温かな ご寄付をありがとうございました。

皆様からの想いは、辛い状況に置かれた子どもたちや被災地の方々へ、大きなチカラとなって届いています。私たちは、その大きく温かく、頼もしいキフノチカラを更に広めていけるよう、引き続き活動をしてまいります。

皆様からのご寄付は、間接経費をいただくことなく、全額現地へお届けします。ご相談やご不明点などありましたら、お気軽にお問い合わせください。引き続きご協力の程、何卒よろしくお願ひいたします。



日本財団ファンドレイジングチーム一同

◇ご寄付・ご支援のお願い



日本財団チャリティー自販機

飲料1本につき10円を社会貢献プロジェクトにご寄付いただく、自動販売機の設置をすすめています。オフィスや施設の自販機を「チャリティー自販機」に替えて社会貢献に参加しませんか。

お問い合わせ先 【受付時間】平日9:00～17:00

お電話 0120-892-139
インターネット <https://yumecho.com>



TOOTH FAIRY

歯科治療や入れ歯等の金属を集めてリサイクルすることで、子どもたちを支援する大切な資金に。TOOTH FAIRY プロジェクトはこの活動に共感した歯科医師が、患者様とご協力により進めています。

お問い合わせ先 【受付時間】平日9:00～17:00

お電話 0120-24-2471
インターネット <https://tooth-fairy.jp>



遺贈寄付

遺贈寄付は、遺贈によって自分の遺産を寄付することです。日本財団遺贈寄付サポートセンターを通して、あなたの意志・意向を最大限尊重し、未来の社会のために役立てるお手伝いをいたします。

お問い合わせ先 【受付時間】平日9:00～17:00

お電話 0120-331-531
インターネット <https://izo-kifu.jp>



現金・その他決済代行サービスによる寄付



■オンラインでの寄付（2020年4月時点）

【銀行口座引き落とし】 口座セレクト
【クレジットカード】 VISA、MASTER、JCB、AMERICAN EXPRESS、DINERS
【コンビニ決済】 ローソン、ファミリーマート、ミニストップ、セイコーマート
【電子マネー】 楽天Edy
【キャリア決済】 auかんたん決済、docomo、ソフトバンクまとめて支払い
【その他決済】 PayPal、Apple Pay (JCB、MASTERのみ)、Pay-easy、WebMoney、Google pay

■銀行振り込みでの寄付またはTポイントでの寄付

お問い合わせ先 【受付時間】平日9:00～17:00

お電話 0120-533-236
インターネット <https://www.nippon-foundation.or.jp/donation/payment>

